

[別紙2]

審査の結果の要旨

氏名 マーシャル・スミス

本研究は日本の健康科学大学の学部学生を対象として喫煙経験の有無に基づく喫煙 KAP（知識、態度、行動）に関する比較研究を行ったものであり、以下の結果を得ている。

1. 日本の保健技術大学の学部学生 553 名を対象とし、喫煙頻度を含めた喫煙に関する KAP を明らかにした。既喫煙者と非喫煙者間でタバコと健康との関係に関する知識と態度についての比較検討から、既喫煙者と非喫煙者ともに、喫煙と健康についての一般知識が高いことを示した。一方、女性既喫煙者が非喫煙者に比べ喫煙が癌を誘発することについての知識に欠けていること、既喫煙者と非喫煙者双方とも喫煙が心臓病に与える影響についての認識が浅いこと、および、既喫煙者は喫煙の習慣性が重要な健康問題を生ずることに関心が低いことなども示した。また、喫煙に関しては、男女共、既喫煙者の多くが、喫煙は人間関係を良くし、リラックスした気分を与えるとする一方で、これら既喫煙者の多くは非喫煙者に比べ、喫煙が重大な健康問題であるという認識に欠けていることも明らかにした。さらに、現喫煙者の中では、女性よりも男性の方が深刻に禁煙したいと思っていることも明らかにした。
2. 既喫煙者（特に女子学生）の喫煙 KAP の決定要素の特定を試みた。その結果、既喫煙者のうち、女性の方が喫煙問題に関心が低いことを示した。具体的には、女性の既喫煙者は喫煙に関する学校教育の強化、政府の警告メッセージの強化、あるいはタバコの宣伝禁止に対して関心が低く、反対に、

男性現喫煙者は禁煙を深刻に考え過去に禁煙を試みていることが明らかになった。

3. 適切な行動を促進するために有効な、根拠に基づいた対策を提言し体系化することを試みた。タバコ抑制対策に関しては、既喫煙者は非喫煙者に比べると、多くの場合やや積極的ではなかったが、全体として既喫煙者でさえもタバコ抑制対策や規制化を支持していることを明らかにした。さらに、既喫煙者は将来、医療従事者として喫煙の影響を他人に伝えたいという高い意識を持っていることも明らかにした。既喫煙学生と非喫煙学生の KAP について検討した結果、特に既喫煙者に対しては、現実的かつ実行可能なタバコ健康教育を強化することが急務であり、彼等に適切な情報を伝え、将来有能な医療従事者となるような知識を与える必要性を提言した。
4. 本研究では、単に調査対象から得られた各回答者の出現度数をもとにした統計解析を実施しただけではなく、各回答より得られた背景について、その理由をもとに質的な側面からの検討も加え、総合的に喫煙 KAP について明らかにしている。

以上、本論文は日本の保健医療技術大学の未成年者における喫煙状況および既喫煙者と非喫煙者の KAP の違いを明らかにし、この結果が与える影響について検討を加え、今後の対策についての提言を行った。本研究は、これまでその重要性が知られていたにもかかわらず、十分な検討が加えられていなかったわが国の未成年者の喫煙に対する知識、態度および行動 (KAP) を具体的に明らかにし、今後の政策立案に重要な貢献を果す研究であり、学位の授与に値するものと考えられる。